

大桃 理志 (おおもも さとし)
自然科学研究科 博士後期課程 2年

平成 29 年 9 月 7 日から 9 日に九州大学伊都キャンパス (福岡市) で開催された第 28 回基礎有機化学討論会において、大学院自然科学研究科・数理物質科学専攻化学コース・博士後期課程 2 年の大桃理志さんの研究発表が若手口頭発表賞を受賞しました。

ジアザポルフィリンは、潜在的に高い光捕集能と一重項酸素発生効率を併せ持つことから、医療用色素の母核として大きな注目を集めています。本研究では、ジアザポルフィリンに簡便にアミノ基を導入する手法を確立し、得られた誘導体の光学特性と電気化学特性を調べました。その結果、アミノ基の導入により、生体透過性の高い近赤外領域の光を効率よく捕集できるようになることがわかりました。本研究により、高い一重項酸素発生効率と近赤外光捕集能力を併せ持つジアザポルフィリンを一段階で合成することが可能となり、新たな医療用増感剤の開発につながることを期待されます。

発表者：大桃 理志 (新潟大学大学院自然科学研究科・博士後期課程 2 年)

(指導教員：俣野 善博 教授)

名称：第 28 回基礎有機化学討論会 若手口頭発表賞

演題名：アミンによる直接アミノ化を利用した 3,7,13,17-テトラアミノ-5,15-ジアザポルフィリンの合成

<for English version of HP>

A second year doctoral student, Satoshi Omomo, has been awarded the Organic and Biomolecular Chemistry Award at the 28th Symposium on Physical Organic Chemistry.

